



平成26年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月8日

上場会社名 株式会社ヒト・コミュニケーションズ 上場取引所 東  
 コード番号 3654 URL <http://hitocom-ir.com/ir/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安井豊明  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理財務本部長 (氏名) 安川徳昭 (TEL) (03) 5952-1219  
 四半期報告書提出予定日 平成26年4月14日 配当支払開始予定日 平成26年5月15日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年8月期第2四半期の連結業績 (平成25年9月1日～平成26年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第2四半期	11,057	12.5	1,160	26.6	1,162	26.3	630	25.9
25年8月期第2四半期	9,832	—	916	—	920	—	500	—

(注) 包括利益 26年8月期第2四半期 628百万円 (25.9%) 25年8月期第2四半期 499百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第2四半期	70 49	—
25年8月期第2四半期	55 97	—

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 平成25年8月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成25年8月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年8月期第2四半期	7,707	5,377	69.8
25年8月期	7,133	4,843	67.9

(参考) 自己資本 26年8月期第2四半期 5,377百万円 25年8月期 4,843百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	—	10 50	—	10 50	21 00
26年8月期	—	11 00	—	—	—
26年8月期(予想)	—	—	—	11 00	22 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年8月期の連結業績予想 (平成25年9月1日～平成26年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,800	7.3	1,853	10.9	1,862	11.0	1,024	10.0	114.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年8月期2Q	8,950,000株	25年8月期	8,950,000株
26年8月期2Q	292株	25年8月期	292株
26年8月期2Q	8,949,708株	25年8月期2Q	8,949,708株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、平成25年2月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。当該株式分割が前期首に行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 決算資料補足説明資料は、作成後当社ホームページに速やかに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却を目指す政府主導による各種政策の実施に伴い、円安の進展や株式市場の回復、個人消費の持ち直しによる企業収益の改善は継続しており、景気回復に向け明るい兆しが見えてまいりました。

当社グループが属する営業支援系アウトソーシング業界においては、雇用関連の各種労働指標の改善により、収益改善を背景とした企業の人材採用意欲は旺盛であり、各種人材サービスに対するニーズは引き続き堅調に推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは取扱商材分野を家電、ブロードバンド、モバイル、ストアサービス、コールセンター他の5区分<sup>(注)1</sup>、<sup>(注)2</sup>に分類しており、従来中心としていた家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野に加え、ストアサービス分野、コールセンター他分野の営業強化によりすべての取扱商材分野をバランスよく成長させることでポートフォリオを充実させ、繁閑や商材のライフサイクルによる影響を最小限にとどめて経営基盤の安定を図っております。

家電分野におきましては、長らく低迷していた地上デジタルテレビの販売が底を打ち、エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の白物家電においても、高価格帯商品の販売が好調に推移いたしました。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要も相まって、消費者との接点を担う販売員の需要が旺盛となっております。

ブロードバンド分野におきましては、平成25年12月末時点の国内のブロードバンドサービスの契約数が8,134万件(前年同月比151.8%<sup>(注)3</sup>)、そのうち平成25年12月末時点のF T T Hアクセスサービス(光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス)の契約数は2,501万件(前年同月比106.2%<sup>(注)3</sup>)となっており、当社グループが主たるマーケットとする光回線市場についても、契約数の増加が継続している状況であります。

モバイル分野におきましては、平成25年4月から平成26年1月のスマートフォン等の携帯電話の国内累計出荷台数については1,969万台(前年同月比90.2%<sup>(注)4</sup>)と減少しているものの、スマートフォンの冬商戦モデルの発売による買い替え需要、タブレットPCの販売増加を背景とした次世代高速無線通信への契約加入の需要により、出荷台数実績の昨年対比は回復しており、販売支援に対する需要は高まっている状況であります。

このようなマーケット状況のもと、当社グループは「販売・営業・サービス分野の本格的アウトソーシング時代を切り拓く」を合言葉に、アウトソーシングサービスを牽引するリーディングカンパニーとして、クライアントのニーズに成果で応える「成果追求型営業支援」の実践を継続いたしました。

その実践として、既存の家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野の販売受託事務局の収益改善に取り組むとともに、新たな成長の柱としてセールスプロモーション提案の強化、ストアサービス分野、コールセンター他分野の営業強化に注力いたしました。その取り組みとしてストアサービス分野においては、食品・コスメティック・ファッション販売等における人材ビジネスへの取り組みを強化し、コールセンター他分野においては、観光市場において展示会、コンベンション、スポーツイベント運営等、従来の添乗・ガイド以外への周辺領域に事業を展開し、人材ビジネスのラインナップを強化いたしました。

また、営業拠点網の充実強化の一環として、平成25年10月に沖縄営業所を開設、平成26年2月に銀座営業部及び仙台支店の増床を実施いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は11,057,622千円(前年同期比12.5%増)となりました。また、販売費及び一般管理費においては、スタッフ確保に向けた募集費への投下を積極的に行うことで、営業基盤の強化に努め、営業利益は1,160,548千円(前年同期比26.6%増)、経常利益は1,162,383千円(前年同期比26.3%増)、四半期純利益は630,858千円(前年同期比25.9%増)となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

## (アウトソーシング事業)

アウトソーシング事業におきましては、家電分野、ブロードバンド分野及びモバイル分野を中心とした販売受託事務局<sup>(注)5</sup>の受注に向けた提案を継続するとともに、セールスプロモーション提案によるキャンペーン受注の獲得及びストアサービス分野・コールセンター他分野における営業アウトソーシングの受注強化に取り組み、新たな成長の柱の育成に注力いたしました。

上記取り組みにより、ブロードバンド分野、モバイル分野におきまして全国展開の家電量販店を対象とした販売受託事務局の案件を受注したほか、家電分野でも大規模な販売事務局の案件を受注いたしました。また、商戦期においてキャンペーン案件の受注が好調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,023,239千円(前年同期比8.4%増)、営業利益は971,680千円(前年同期比18.7%増)となりました。

## (人材派遣事業)

人材派遣事業におきましては、ストアサービス分野、コールセンター他分野を中心に、幅広い取引先からの案件の受注獲得に取り組みました。ストアサービス分野におきましては、食品・コスメティック・ファッション販売等の人材派遣の案件の受注が増加したほか、生鮮技師、太陽光発電機器の販売受付等の人材派遣の案件の受注も増加いたしました。また、コールセンター他分野におきましては、観光市場において展示会、コンベンション、スポーツイベント運営等、従来の添乗・ガイド以外の領域での案件受注が好調に推移したほか、東日本エリアにおけるコールセンター案件の受注も好調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,012,184千円（前年同期比25.1%増）、営業利益は184,179千円（前年同期比63.9%増）となりました。

## (その他)

その他におきましては、ブロードバンド分野において、東日本・西日本両エリアで販売教育研修の案件を前連結会計年度に引続き受注いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,198千円（前年同期比15.0%増）、営業利益は13,879千円（前第2四半期連結累計期間は5,449千円の営業損失）となりました。

(注) 1 アウトソーシング事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売</li> <li>生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売</li> </ul>
ブロードバンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定通信回線（光回線等）への加入促進業務</li> <li>インターネットサービスプロバイダーへの加入促進業務</li> </ul>
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売</li> <li>次世代高速無線通信への加入促進業務</li> </ul>
ストアサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売</li> <li>カードの加入促進業務等</li> </ul>
コールセンター他	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種受付コールセンター業務</li> <li>流通、小売サービスセンター業務</li> <li>バスガイド業務</li> <li>展示会、コンベンション、スポーツイベント等運営業務 他</li> </ul>

2 人材派遣事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売</li> <li>生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売</li> </ul>
ブロードバンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信回線獲得アウトバウンド</li> </ul>
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売</li> <li>次世代高速無線通信への加入促進業務</li> </ul>
ストアサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売</li> <li>金融、カードビジネス窓口案内、カード会員の獲得</li> </ul>
コールセンター他	<ul style="list-style-type: none"> <li>コールセンター業務</li> <li>品出し、流通バックヤード業務</li> <li>営業事務、貿易事務、経理事務</li> <li>国内旅行・海外旅行添乗業務、バスガイド業務</li> <li>展示会、コンベンション、スポーツイベント等運営業務 他</li> </ul>

3 (出典)：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表（平成25年度第3四半期（12月末）」より

4 (出典)：(社)電子情報技術産業協会「移動電話国内出荷実績」（平成26年1月）より

5 当社グループは、アウトソーシング事業においてブロードバンド商材及びモバイル商材等を販売する際に、クライアントの課題・施策を共有し、解決するために「販売受託事務局（ヒト・コミュニケーションズ事務局）」をクライアントごとに設置しております。当該事務局は、クライアントとの交渉窓口や販売施策の立案等を行う事務局長の下、各売場にてスタッフへの指示命令を行うディレクターを配置し、インターネットや固定通信事業等に精通したスタッフから組成されています。各販売受託事務局は、スタッフの採用、研修制度の構築、販売カリキュラムの作成、販売現場のラウンディング（巡回）、クライアントへの販売状況のフィードバック等、商品を販売する一連の業務を行っております。

それによりクライアントは、スタッフの管理負担及び教育負担の軽減が図れ、販売現場とマーケティング機能を分離することによる効率化等のメリットを享受することができ、クライアントの業績の向上につながっているものと考えております。

なお、当第2四半期連結累計期間における取扱商材分野別の売上高の概況は以下のとおりであります。

(a) 家電

家電分野におきましては、商戦期のキャンペーン案件の獲得に向けた営業活動を実施した結果、デジタル家電の販売を中心にキャンペーン案件の受注が増加いたしました。

主要なクライアントである総合家電メーカーにつきましても、大規模な販売受託事務局を受注し、また常勤稼働の人材派遣案件の受注が回復いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,501,767千円（前年同期比10.4%増）となりました。

(b) ブロードバンド

ブロードバンド分野におきましては、就業スタッフの販売スキルの強化による回線契約の獲得実績の向上、全国における販売受託事務局の提案営業を実施いたしました。

上記取り組みにより、青森地区において新規に販売受託事務局の案件を受注した他、前連結会計年度に受注した全国展開の家電量販店を対象とした販売受託事務局の案件が売上の増加に寄与いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,232,251千円（前年同期比29.0%増）となりました。

(c) モバイル

モバイル分野におきましては、前連結会計年度において受注したスマートフォン等の販売を業務とする販売受託事務局の売上が通期で寄与したほか、セールスプロモーション営業部と連携し商戦期のキャンペーン案件の受注に向けた営業活動を強化した結果、全国展開の家電量販店を対象としたキャンペーン案件を受注いたしました。

しかしながら、一部の販売受託事務局につき、請負契約から人材派遣契約への移行による売上減少がありました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,640,344千円（前年同期比13.0%減）となりました。

(d) ストアサービス

ストアサービス分野におきましては、新規顧客に対する全社的な営業強化によりサービス取り扱い商材の拡大を図った結果、食品・コスメティック・ファッション販売、レジ業務及び住宅リフォーム、太陽光発電機器の販売受付等の案件の人材派遣の売上が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は440,195千円（前年同期比16.8%増）となりました。

(e) コールセンター他

コールセンター他分野においては、観光市場において展示会、コンベンション、スポーツイベント運営等、従来の添乗・ガイド以外への周辺領域の案件の受注が好調に推移しました。

また、コールセンター領域についても、東日本エリアを中心に人材派遣案件の売上が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,243,064千円（前年同期比23.9%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末に比較して574,240千円増加して、7,707,894千円(前連結会計年度末比8.0%増)となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比較して496,398千円増加して、5,375,418千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加525,681千円がありましたが、売掛金の減少11,309千円等があったことによるものであります。

また、固定資産の残高は、前連結会計年度末に比較して77,841千円増加して、2,332,475千円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加96,570千円等があったことによるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債の残高は、前連結会計年度末に比較して39,560千円増加して、2,330,046千円(前連結会計年度末比1.7%増)となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比較して54,108千円減少して、2,143,325千円となりました。主な要因は、短期借入金の増加100,000千円、未払法人税等の増加105,377千円がありましたが、未払金の減少209,578千円、預り金の減少43,412千円等があったことによるものであります。

また、固定負債の残高は、前連結会計年度末に比較して93,668千円増加して、186,721千円となりました。主な要因は、長期前受金の増加82,364千円等があったことによるものであります。なお、長期前受金は、貸借対照表上、その他に含め表示しております。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末に比較して534,679千円増加して、5,377,847千円(前連結会計年度末比11.0%増)となりました。主な要因は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加630,858千円がありましたが、剰余金の配当による利益剰余金の減少93,971千円等があったことによるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の四半期末残高は、前年同期に比較して960,006千円増加して、2,514,504千円(前年同期比61.8%増)となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は649,042千円(前年同期は481,779千円の収入)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益1,149,501千円がありましたが、営業債務の減少197,538千円、法人税等の支払415,185千円等があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は129,418千円(前年同期は269,290千円の収入)となりました。これは主に投資有価証券の取得100,000千円、有形固定資産の取得15,105千円等があったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は6,057千円(前年同期は633,279千円の支出)となりました。これは短期借入金の純増額100,000千円、配当金の支払による支出93,942千円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年8月期の連結業績予想につきましては、平成25年10月10日公表の数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。



3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,988,822	2,514,504
売掛金	2,732,456	2,721,146
前払費用	35,705	47,160
繰延税金資産	76,510	76,510
その他	45,523	16,095
流動資産合計	4,879,019	5,375,418
固定資産		
有形固定資産		
建物	773,487	785,994
減価償却累計額	△110,777	△130,580
建物(純額)	662,710	655,414
工具、器具及び備品	103,963	103,326
減価償却累計額	△76,896	△80,779
工具、器具及び備品(純額)	27,067	22,546
土地	1,272,197	1,272,197
有形固定資産合計	1,961,974	1,950,158
無形固定資産		
のれん	28,943	24,904
ソフトウェア	38,704	36,190
その他	2,036	1,959
無形固定資産合計	69,684	63,054
投資その他の資産		
投資有価証券	57,215	153,785
関係会社出資金	26,602	13,720
敷金及び保証金	82,100	87,516
繰延税金資産	48,243	49,465
その他	8,813	14,775
投資その他の資産合計	222,974	319,262
固定資産合計	2,254,634	2,332,475
資産合計	7,133,654	7,707,894

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	100,000	200,000
未払金	1,270,001	1,060,422
未払費用	30,557	15,879
未払法人税等	440,859	546,236
未払消費税等	188,500	177,507
預り金	84,181	40,769
賞与引当金	66,585	34,901
役員賞与引当金	13,600	—
その他	3,146	67,608
流動負債合計	2,197,433	2,143,325
固定負債		
退職給付引当金	16,305	18,403
役員退職慰労引当金	57,978	65,279
資産除去債務	18,769	20,674
その他	—	82,364
固定負債合計	93,052	186,721
負債合計	2,290,486	2,330,046
純資産の部		
株主資本		
資本金	737,815	737,815
資本剰余金	609,788	609,788
利益剰余金	3,495,589	4,032,476
自己株式	△164	△164
株主資本合計	4,843,029	5,379,916
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	138	△2,069
その他の包括利益累計額合計	138	△2,069
純資産合計	4,843,168	5,377,847
負債純資産合計	7,133,654	7,707,894

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
四半期連結損益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
売上高	9,832,221	11,057,622
売上原価	7,547,818	8,428,909
売上総利益	2,284,403	2,628,712
販売費及び一般管理費	1,367,894	1,468,163
営業利益	916,508	1,160,548
営業外収益		
受取利息	151	211
有価証券利息	1,103	297
受取地代家賃	2,040	2,040
有価証券評価益	2,380	—
雑収入	180	343
営業外収益合計	5,855	2,892
営業外費用		
支払利息	2,120	855
債権売却損	—	202
雑損失	3	—
営業外費用合計	2,123	1,057
経常利益	920,240	1,162,383
特別利益		
投資有価証券売却益	1,178	—
特別利益合計	1,178	—
特別損失		
固定資産除却損	1,090	—
関係会社出資金評価損	7,398	12,881
特別損失合計	8,488	12,881
税金等調整前四半期純利益	912,930	1,149,501
法人税等	412,038	518,643
少数株主損益調整前四半期純利益	500,892	630,858
少数株主利益	—	—
四半期純利益	500,892	630,858

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	500,892	630,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,373	△2,207
その他の包括利益合計	△1,373	△2,207
四半期包括利益	499,519	628,651
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	499,519	628,651
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	912,930	1,149,501
減価償却費	34,348	33,720
のれん償却額	4,038	4,038
退職給付引当金の増減額(△は減少)	471	2,098
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,853	7,301
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,250	△13,600
賞与引当金の増減額(△は減少)	△31,394	△31,684
受取利息及び受取配当金	△1,255	△509
支払利息	2,120	855
有価証券評価損益(△は益)	△2,380	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,178	—
関係会社出資金評価損	7,398	12,881
固定資産除却損	1,090	—
売上債権の増減額(△は増加)	26,988	11,309
営業債務の増減額(△は減少)	△107,384	△197,538
未払費用の増減額(△は減少)	△24,667	△14,678
未払消費税等の増減額(△は減少)	△6,073	△10,992
未払法人税等の増減額(△は減少)	△780	1,919
前受金の増減額(△は減少)	6,257	146,130
その他	5,403	△36,181
小計	820,538	1,064,573
利息及び配当金の受取額	1,255	509
利息の支払額	△2,120	△855
法人税等の支払額	△337,893	△415,185
営業活動によるキャッシュ・フロー	481,779	649,042
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△200,000	△100,000
投資有価証券の売却による収入	501,305	—
有形固定資産の取得による支出	△7,623	△15,105
無形固定資産の取得による支出	△24,167	△2,232
敷金及び保証金の差入による支出	△5,167	△12,369
敷金及び保証金の返還による収入	5,842	6,288
資産除去債務の履行による支出	△900	—
その他	—	△6,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	269,290	△129,418
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△450,000	100,000
配当金の支払額	△183,279	△93,942
財務活動によるキャッシュ・フロー	△633,279	6,057
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	117,790	525,681
現金及び現金同等物の期首残高	1,436,707	1,988,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,554,497	2,514,504

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,404,752	2,408,173	9,812,925	19,295	9,832,221	—	9,832,221
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	7,404,752	2,408,173	9,812,925	19,295	9,832,221	—	9,832,221
セグメント利益 又は損失(△)(注) 1	818,773	112,375	931,149	△5,449	925,700	△9,191	916,508

(注) 1 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,023,239	3,012,184	11,035,423	22,198	11,057,622	—	11,057,622
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	8,023,239	3,012,184	11,035,423	22,198	11,057,622	—	11,057,622
セグメント利益 (注) 1	971,680	184,179	1,155,860	13,879	1,169,740	△9,191	1,160,548

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。